

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2024	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科					
科目名称	幼児と音楽				授業形態	講義				
科目コード	750191	単位数	2	配当学年	3	実務経験教員担当		アクティブ ラーニング	○	
教員氏名	早川 純子									
授業概要	この授業では、領域「表現」のねらい及び内容を踏まえて、幼児の表現の姿やその発達を理解するとともに、多様な音楽表現の基礎的な知識・技能を身につけていく。聴く・歌う・動く・奏でる・つくる、といった様々な表現活動の取り組みを通して、表現することの楽しさや協働して表現することの喜びを実感し、豊かな表現へとつなげる保育技術の習得を図る。そのために、4領域との関連や小学校音楽科教育への接続的視点を押さえ、季節や行事、伝承遊び等文化に親しむ姿勢を大切にしながら、実際の保育について検討し体験する機会を設けて実践力を身につける。各活動ではICTを活用した具体的事例を提示し、理解の促進を図る。									
関連する科目	事前に「音楽」を受講し、楽典やソルフェージュの学習によって、楽譜の読み方を把握し視唱・視奏などの実践できていることが望ましい。また、「ピアノ実技I(基礎)」および「ピアノ実技II(応用)」の受講を通して、ピアノ実技の基礎的な技能を確実に身につけ、鍵盤演奏に熟練していることが望ましい。									
授業の進め方と方法	授業ごとに、理論と実践の両方を行う。 前半で発達段階や保育技術の理論を学び、後半で季節の歌、手あそび、簡易伴奏法に関するワークショップを行い実践的に学習する。									
授業計画	<p>第1回：幼児の感性と表現 領域「表現」のねらいと内容：幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因について理解する。</p> <p>第2回：様々な表現における基礎的な内容① 聴く活動：身の回りの様々な音の存在に気づいて響きを楽しむ感性を育て、相手の言葉に耳を傾け他者の気持ちを思いやる心を育む表現遊びの方法を学ぶ。</p> <p>第3回：様々な表現における基礎的な内容② 歌う活動：歌うことの楽しさ、協働して表現することの喜びを実感できる表現遊びの方法を学ぶ。</p> <p>第4回：様々な表現における基礎的な内容③ 動く活動：目に見えない音楽を、歩く・走る・転がる・揺れる・跳ぶ等の動きで可視化し、表現力や集中力を身に付ける表現遊びの方法を学ぶ。</p> <p>第5回：様々な表現における基礎的な内容④ 奏でる活動：ふる・たたく・おす・ふく・はじく・こする等の奏法を理解し、様々な響きの聴き比べを通して、音色・強弱・長短などの音楽要素への気づきを促す表現遊びの方法を学ぶ。</p> <p>第6回：様々な表現における基礎的な内容⑤ つくる活動：手づくり楽器を製作して、自分だけの音づくりや即興演奏、リズム遊びの方法を学ぶ。</p> <p>第7回：様々な表現における基礎的な内容⑥ 模擬保育①（聴く活動・歌う活動・動く活動）：身体の諸感覚を通じた表現活動に取り組み、表現することの楽しさや協働性の喜び、そしてその重要性を実感する。</p> <p>第8回：様々な表現における基礎的な内容⑦ 模擬保育②（奏でる活動・つくる活動）及び振り返りとまとめ：身近な素材を用いた創作的活動に取り組み、その面白さや可能性を実感する。</p>									
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」のねらい及び内容を理解し、その位置づけについて説明できる。 2. 聴く・歌う・動く・奏でる・つくる等の様々な表現遊びや環境構成についての知識・技能、表現力を身に付ける。 3. 表現することの楽しさ、協働して表現することの喜びを幼児と共有することができる。 									
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力	(1)	○	(2)	○					
	2. 汎用的技能を応用し活用する能力	(1)	○	(2)						
	3. 人間力、社会性、国際性の涵養	(1)		(2)	○	(3)	○	(4)	○	(5)
授業時間外の学修	<p><予習> 幼児の発達段階について、事前に図書や文献を活用して、言語習得、社会性の発達、運動能力の向上など、音楽活動に関連する要素を確認しておくこと。(30分程度)</p> <p><復習> 授業で課した課題に取り組むほか、参考文献を調べて自発的に課題を見つけたり、授業内容の理解を深めること。(1時間程度)</p>									
課題に対するフィードバック	テストや課題については、評価と解説を行います。									
評価方法・基準	<p>授業態度や授業時間外の学修状況、及び模擬保育と定期試験から総合的に判断する。</p> <p>①受講態度及び学修状況：50%</p> <p>②模擬保育：20%</p> <p>③定期試験：30%</p>									
テキスト	<p>①櫻井琴音・上谷裕子 編著『第2版 アクティブラーニングを取り入れた子どもの発達と音楽表現幼稚園教諭・保育士養成課程』(学文社)</p> <p>②大石光・下村幸・鳥居美智子 共編『楽しい歌とあそび』(音楽之友社)</p>									
参考書	<p>①『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)</p> <p>②『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>									
備考										